

非暴力がもたらすもの

O・P・ケジリワール
渡辺輝明 訳

ラダクリシュナン博士は講演において、アヒンサー（不殺生）の概念が、ブッダの時代からガンジーの時代にまで伝えられてきたことを話されました。アナンダ博士は、ガンジーがどのようにして、ブッダが生きていた苦難多き時代に回帰しようとしていたのかという点に触れられました。皆様は、ここで疑問をもたれたのではないのでしょうか。私は疑問に思ったのです。単純な理由によって、悪は生き残っています。アヒンサーがブッダの教えによって確立された実践論として成立していたらならば、ガンジーは現れなかったでしょう。

らなかったのです。それでも悪は生き残りました。神の生まれ変わりはどこにいますか。悪は居座ったままです。しかも悪は増大し続けています。なぜでしょうか。思いあたる理由をあげるとすれば、数百、数千のアングリマール（央篇摩羅。コーサラ国出身の仏弟子だが出家前は残虐な賊であった）に対して、ただ一人のガンジーしかないということです。

私はよく疑問に感じるのでありますが、なぜ私たちは非暴力という手段を用いなければならないのでしょうか。暴力は力を与え、金を与え、すべてを与えます。それなのになぜ、私たちは非暴力という手段をとらなければならないのか。私は、その疑問に一つの答えを見出しました。皆様もネルー記念博物館に足を運ばれたなら、すぐさま、そこにネルー元首相がおられた当時の状態がそのまま維持されていることに気づかれるでしょう。そして、どの部屋にもブッダの像や絵などが置いてあることに気づかれるでしょう。ネルー元首相にとって、ブッダとは理想であったのかもしれませんが、そこでまた私はある疑問を抱きました。わが国を複雑

う。つまり、悪は生き残っているだけではなく、ラダクリシュナン博士が明らかにされたように、大きく力を増してきたのです。

たとえばその証拠として、典型的なヒンディー映画を思い浮かべてみてください。大ヒットした映画の内容はどうでしょうか。その多くが、映画が終わる数分前まで悪役が何百という人を殺し、村を破壊しつくして、最後に彼が殺されるとい内容です。これが示しているのは、悪とは力だということです。神は、世界から悪を払拭するために十回生まれ変わらなければな

多様な問題群が取り巻いているとき、正気を失うかもしれない困難な状況のなかで彼はどのようにして自分を維持できたのでしょうか。私は、それはいくつものブッダの像を眺めることによってではなかったかと思っています。ブッダの前に立ち彼を見つめれば、静寂な心があなたを包み込むような印象を受けることでしょう。ブッダの表情はまさに静寂そのものであり、他の神や守護神には見られない表情が見て取れるのです。

皆様をご存知のブッダの説話はたくさんあります。そして仏教はある意味で、二つのレベルにおいて注目されており。残念なことに仏教の核心よりも、その複雑さという面に注目されがちなのですが。

では、仏教の核心とは何でしょうか。ある女性がブッダの元へ泣きながらやってきました。その女性は息子を亡くしたばかりでした。そのときブッダは、「私のところに、まだだれも身内を失ったことのない家庭から辛子の種をもつてきなさい」といいました。この簡単な仏教の原則が、ある意味で根本的な原則となっているのではないかと思います。それによって平和をも

現代におけるガンジールの教育思想の重要性について

V・N・ラジャシエーカラン・ピライ
渡辺輝明 訳

日印共同シンポジウムの進行役を務められるラダククリシユナン博士、ならびに尊敬するパネリストの皆様、そして参加者の皆様、このたびは、このようなすばらしい機会にご招待いただきありがとうございます。

私はこれまでに、教師、研究者、事務担当官として大衆教育に従事してきましたが、本日は、そのような経験をおまえて、「教育とガンジール主義」をテーマに講演させていただきます。本日このように、東洋哲学研究所と国立ガンジール博物館、そしてインド創価学会による、ガンジール主義と仏教に関する現代的思想をテーマ

に掲げたシンポジウムに参加させていただいたことは、私の最大のよろこびであります。

一 教育の目的

私は、過去三十年以上にわたって大学組織に関わってきました。カレッジや総合大学で学ぶ皆さんの学部生と交流してきましたし、副学長として講演するために大学やカレッジに足を運びました。この大学という組織は、教育の目的という観点から、これまで何度も批判されてきました。社会における教育の目的とは